

生ごみ自家処理 こうしてためています!

ごみゼロ譜
国分寺・5303の会

「ごみけしくん」で生ごみ堆肥化

なかだいら
東京都国分寺市・中平 靖弘



「5303の会」は、平成16年にスタートした市民環境団体です。月1回の「例会(学習会)」をベースに、市へ建設的な提言をしたり、市の生ごみ対策課と後述の協働事業を行ったりしています。

以下「生ごみ」を中心に、本会の活動の一端を紹介させていただきます。

清掃センターに集積する廃棄物のほぼ90%を「もやせるごみ」が占め、その40%が「生ごみ」で焼却処分されています。依然、生ごみ減量・資源化は喫緊な課題です。こうした状況の中、岐阜県の業者、ごみ対策課、さらに市民の有志が加わって、家庭用生ごみたい肥化装置「ごみけしくん」が誕生しました(写真)。円筒形の装置は上下が網目構造で、生ごみが発酵分解され温度が上昇するとともに、中の気体は底部から上部、そして外部へとはき出されます。これがごみけしくんの優れた特徴の一つです。一般にたい肥化過程で発生する臭気は、主として食品のタンパク質に含まれる窒素と硫黄に由来するアンモニアあるいは硫化水素に似た気体の混合物です。しかし、ここに酸素が存在すると、窒素および硫黄部分は酸化されて、腐敗臭はほとんどなくなり、発酵臭のみとなります。



H 51cm × W 40cm (55ℓ)

「ごみけしくん」は生ごみに付着している好気性菌を活発に活動させ、腐敗菌(嫌気性菌)を極力抑え込む装置なので、生ごみと床土<腐葉土・分解促進剤(米ぬか)・そば殻>を移植コテなどで攪拌することが特に重要です。陽当たり、風通しの良い場所に置いて、適度な湿度を保てば、後は自分のペースに合わせて使用できます。

なお、ごみけしくんは市で斡旋し、国分寺市民には販売価格14,000円のうち10,000円が助成されます。新規購入者にはごみけしくんが到着し次第、ごみ対策課のベテラン職員が購入者の家に出向き、装置をセットし、使用法などを実演も交えて詳しく説明します。また、情報交換会を開き、貸与制度も導入するなどして普及につとめています。

市と5303の会の協働事業には、そのひとつに環境教育があります。小学校低学年児童に「生ごみがたい肥になること」を紙芝居(本会で制作したもの)で楽しく学習してもらった後、実践を通して、親の常識も変えようという試みです。紙芝居の題目は『自然の中から宝探し』。有用微生物を擬人化した「元気丸くん」の活躍で、有機資源の利用や堆肥生成といったむずかしい話をわかりやすく説明しました。その後、落ち葉のたい肥化、給食残渣と米ぬかを使って、プランターで野菜を栽培しました。他には、清掃センター職員による生ごみの分別クイズや、生ごみたい肥で育った小松菜と赤カブの収穫など、楽しみながら自然循環に対する感性を育てることができたと自負しています。

タイトル写真は「環境まつり」の様子です。毎年「生ごみたい肥化」をメインテーマに参加しています。今回、人目を引いたのは新たに開発されたライトグリーンの「ごみけしくん mini」です。これまでのごみけしくんと原理的には同じですが、外側が網目構造で通気性が向上し、発酵袋の底の紐を上下することで簡単に攪拌ができ、コンパクトなので、マンションのベランダなどでも使ってもらえます。

今年6月、いよいよ、国分寺市でも生ごみ処理が「有料化」されることになりました。「生ごみたい肥化」への大きなインセンティブの一つになることを願っています。